

災害時 急いで消火！ 帯広で3300人訓練



市民や関係機関が連携して災害に備える宮坂建設工業（帯広）主催の第27回地域防災訓練が12日、帯広市西17南5の帯広南商業高跡地で開かれ、地域住民ら約3300人が参加した。会場では地震の揺れや火

災の煙を再現するコーナーが設けられたほか、炊き出し訓練として約2千人分のカレーも振る舞われ、参加者が味わっていた。市内の高校と小学校計6校の児童・生徒も、授業の一環としてバケツリレーや土のう作りに参加。消防署の講座では帯広南商高生がアルミシートを担架にする

バケツリレーで小学生らがいざという時の対応を学んだ。地域防災訓練（村本典之撮影）方法を体験した。けが人役だった1年の岩城花恋さんは「持ち上がるか不安だったが、思ったよりしっくりしていた。身近なものが役に立ってすごい」と話した。会場では防災グッズの展

示も、初参加の電子部品販売の雷電（東京）は、水につけると明かりがとる非常灯などを来場者に配布。宮坂建設工業や市などにも寄贈された。（東野純也）

住民参加し訓練 災害時対応学ぶ 宮坂建設工業



宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は12日、帯広市内の旧帯広南商業高校跡地（西17南5）で住民参加型の地域防災訓練を実施した。約3300人が参加し、災害発生時の対応を学んだ。今年で27回目。1993年に社の防災訓練として始め、2003年の十勝沖地震を機に住民参加型に移行した。がれきから人が

救助する訓練が公開されたほか、最大震度7の地震を体験できるコーナーが関心を集めた。電気自動車から電力を供給し、コーヒーターを振る舞ったり、カレーライスの炊き出しも行われた。市内の40代の女性2人は地震体験車に乗り、「家具を固定することがいかに大切か実感した。訓練をする

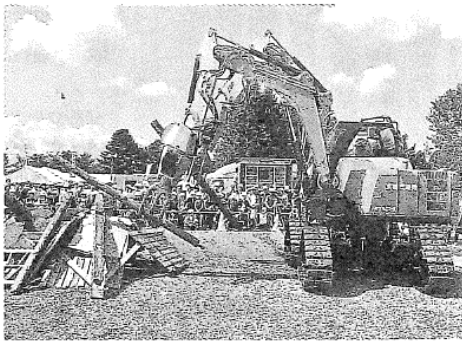
と、備えを考えるきっかけになる」と話した。宮坂社長は「自分の身は自分で守る」という意識で取り組んでほしい」と述べた。訓練では電子部品販売などの雷電（東京）が、携帯トイレや非常灯を同社に寄贈。同社から感謝状が贈られた。（中島佑斗）

意識の高まりひしひし

宮坂建設工業が地域防災訓練

緊急時の対応方法学ぶ

【帯広発】宮坂建設工業(株)(帯広、宮坂寿文社長)は12日、帯広市内の帯広南商業高校跡地で第27回地域防災訓練を行った。帯広市近郊で大規模地震が発生したことを想定し、瓦礫救出訓練や消火訓練、炊き出し訓練など多種多様な訓練を実施。地域住民ら延べ3300人が来場し、緊急時の対応方法を学ぶとともに、防災意識の高揚を図った。防災訓練は1993年から実施しているもので、2003年の十勝沖地震を機に対象を拡大。災害が発生した場合の地域住民の安全確保や迅速な応急復旧に資するため、住民参加型で



双腕機が瓦礫を取り除いて救助隊の進入スペースを確保



バケツリレーに挑戦する小学生たち

行っている。この日は、帯広市近郊で震度6弱の地震が発生したことを想定。第1部では、安否確認メールを発信したあと、災害対策本部を設置。札幌支社と連携を図りながら、被害状況確認や情報収集を行うとともに、河川や橋梁、建物のパトロールを行った。

一般公開で行った第2部の訓練には地域住民ら延べ3300人が来場。小学生や高校生も多数参加し、関係機関や民間企業の協力の

もと、地震体験車の試乗体験や水防訓練、火災時の煙体験や応急処置・救護方法の講習など様々な訓練を受けた。瓦礫救出訓練では、瓦礫内に残された要救助者を救出するため、双腕機が瓦礫を取り除いていく迫力ある作業風景を見学。消火訓練では小学生がバケツリレーをして、懸命に水を運んだ。このほか、炊き出し訓練では毎年好評の「宮坂カレー」が来場者に振る舞われた。

宮坂社長は「これだけ多くの人が訪れ、地域の防災意識が大変高まってきていると感じる。我々も防災産業として事業をさらに進化させていきたい」と話していた。なお、この日、今回初めて防災訓練に参加した雷電(株)が同社に防災グッズとしてアクモキヤンドル105個と携帯トイレ50個を寄贈。同社からは宮坂社長が訓練会場で雷電の道場守社長に感謝状を贈った。

千歳川河川事務所などの職員も訓練に参加した。会が少ない貴重な訓練ができて良かったと話していた。災害パネル、緊急車両等の展示のほか、ドローンのデモンストレーションや非常食の試食、防災・救援グッズの展示ブースも設置し、来場者は災害への備えにも関心を寄せた。



千歳川河川事務所などの職員も訓練に参加した

地域防災訓練で「貴重な体験」

心肺蘇生、土のう作製も

札幌支社が北広島河川防災STで

宮坂建設工業(株)札幌支社(金田幸一執行役員支社長)は12日、北広島市内の千歳川左岸にある北広島河川防災ステーションで第27回地域防災訓練を実施した。地域住民ら約1000人が参加。北海道胆振東部地震から1年が経ち、被災の教訓を忘れないようあらためて災害への備えを学んだ。

札幌開建千歳川河川事務所、札幌建管、厚別警察署、北広島消防署などの協力を得て実施。同ステーションでの開催は3回目。会場では、地域住民らが水防工法に使うロープ結びや、土のう作製体験、地震と降雨体験車試乗などの実技訓練を行った。AEDを使った心肺蘇生法の訓練や月の輪工法、積み土のう工法などの水防訓練も行われ、千歳川河川事務所や企業の若手職員らも積極的に参加し「体験する機

会が少ない貴重な訓練ができて良かったと話していた。災害パネル、緊急車両等の展示のほか、ドローンのデモンストレーションや非常食の試食、防災・救援グッズの展示ブースも設置し、来場者は災害への備えにも関心を寄せた。この日朝には、北広島市で震度6弱の地震が発生したとの想定で、帯広本社の対策本部と支社対策本部を衛星電話で結び、連絡体制の確認などの訓練も行った。金田支社長は「地域の防災強化を一層図れるよう、見て、聞いて、体験してもらい防災への意識を向上させてほしい」と話していた。

住民ら参加し 地域防災訓練

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広）は12日、旧帯広南商高跡地で第27回地域防災訓練を開催した。地域住民ら約3300人が参加し、体験型訓練を通じて防災意識の向



上を図った。

札幌と帯広で震度6弱の地震が発生したとの想定で実施。災害対策本部を設置し、札幌支社と連携を取り河川、建物、現場

パトロールを行った。

地域住民参加の訓練では、帯広市消防団のポンプ車実演や小学生によるバケツリレーでの消火活動などを展開。がれきからの救出訓練では、双腕重機が家屋の柱を除去し、レスキュー隊が要救助者に見立てた人形を救出した。写真。

今回は電子部品などを販売する雷電（本社・東京）が初めて参加。来場者や宮坂建設工業に非常灯合計105個と携帯トイレ50個を寄贈し、宮坂寿文社長から感謝状を受け取った。雷電はこの後、市役所と帯広神社にも防災グッズを寄贈した。

宮坂社長は「防災訓練は学校のカリキュラムにも組み入れられるようになった。事前に訓練する予防災を認知してほしい」と話していた。